

情報提供(みちしるべ)

第8回フィールドワークを終えて
丹波古文書倶楽部代表 川口利和

本年度フィールドワークは12月18日(日)13:30から青垣住民センターをメイン会場とし、脇本陣、高座神社を現地調査箇所として実施しました(詳細は後ほど説明)。フィールドワークは平成23年度丹波古文書倶楽部発足当初からの実施事業で、毎月開催の講座と同じ歴史をもっています。

そもそもの趣旨は、当倶楽部は活動範囲を市内全域としています。が、旧町単位やより特定の地域等で熱心に地域活動されておられる古文書学習団体(個人)と交流をすることで承知していなかった古文書学習団体(個人)の活動実態の認識や地域の歴史遺産の発見があります。それらの団体等には当古文書倶楽部より比較にならないほど成熟した団体があります。その実績には刊行物による定期的な成果発表や地域住民に対する成果還元があります。そのことによって地域に根ざした活動であることで地域住民から高い評価を受け、地域団体

としての存在価値が生まれていることと推測します。素晴らしい活動であります。当倶楽部も地域団体として存在価値を高められれば理想と考えるところではありますが、まだまだ道半ばであると思っております。将来的には地域団体との連携によって共通課題の解消が図れることを期待するところであります。

さて、今回の会場は青垣住民センターで開催しましたが、今回が初めての会場です。ひょんなことから丹波の森公苑で青垣古文の会長と面識することでご縁ができました。



開催の様子は以下のとおりです。

まず、青垣古文の会下野会長から会の概要説明をいただきました。平成9(1997)年誕生で18年の歴史があります。当倶楽部の12年先輩で蓄積された学習内容は膨大なものがあると想像します。

その後、95歳の声田輝雄先生による古文書講座。誰もがその年齢に、お元気に、頭脳明晰さに感嘆の声を上げたところです。凡そ60分の間、起立し、ボードにマーカーで重要な点をすらすら

書き、丁寧な説明をして参加者一同立派さに唖然でありました。その後は現地調査です。この日は小春日和の快晴であったことで、青垣住民センターからの乗用車による移動は大いに楽なものとなりました。まず、脇本陣(副本陣とも言う)では戸主の中島(なかしま)、またはなかしまどちらも良いとのこと(氏より脇本陣の歴史説明を受ける。その後、展示古文書を鑑賞する。

展示物は長澤芦洲絵馬下絵、小島省斎掛け軸、富岡鉄斎からの封書、華岡青洲文書等である。ガラスケースのない場所での近接した鑑賞は貴重な経験かも知れない。

質問あり、参加者の感想ありで賑やかな場となった。次の会場である高座神社へ向かう。拝殿前で梅只宮司の神社縁起等の説明を受けた後、社務所で当神社が陰陽師に関わりがあったことその関連道具、当神社で保管の別所吉治



公寄付状(1601年)、高座大明神印状(1670年)、高座神社絵図(1873年)などの古文書の鑑賞をさせていただいたが、熱心な学習姿勢だったことで鑑賞時間が不足気味となったことが悔やまれるところである。

その後、青垣住民センターで質疑応答等を実施し、お開きとした。総参加者約40名と募集枠より若干少なめであったが、滞りなく盛会であったことで嬉しい限りである。現地での青垣古文の会下野会長、芦田輝雄先生、脇本陣中島家、高座神社梅只宮司におかれては忙しい中、当倶楽部のフィールドワークにご協力賜り熱く感謝申し上げます。

